

# 果実吸汁ヤガ



## ヤガとは

果実吸汁ヤガ(夜蛾)もしくはヤガとは、果樹園に飛来して果実の果汁を吸うガの総称である。幼虫はアケビなどを食草とし、果樹園周辺の雑木林で発生する。果実が熟する頃になると果樹園に飛来して食害する。果樹園外で発生して収穫直前に飛来するため、防除が困難な害虫である。

果樹研究所県北分場に飛来するヤガ8種

## ヤガの被害



モモ果実への加害のようす(アケビコノハ)

ヤガにはアケビコノハのように健全な果実に直接加害する一次加害種と、他のヤガの食害痕や腐敗した果実の浸出液を吸汁するトモエガのような二次加害種がある。

徳島県内では6月下旬のスモモの成熟期から被害が見られるようになるが、被害が顕著になるのは7月下旬以後である。果樹園の周囲に雑木林のある地域では、晩生のモモやナシ、リンゴ、極早生温州などで被害が見られる。とくに、晩生のモモではヤガ対策を実施しないと全滅することもある。なお、通常の果実袋で被害を防止することはできない。



果実袋の上から加害する(アケビコノハ)



食害を受けたモモ果実

## ヤガの被害防止対策



防虫ネット

### 防虫ネット

防虫ネットは最も効果的なヤガ防止法である。ネットは6mm目程度のもを使用する。被覆はヤガの被害が始まる前に行い、収穫後はすみやかに撤去する。ヤガ以外にも、カメムシ、鳥害などに効果があり、モモでは早めに被覆することにより穿孔細菌病予防にも効果がみられる。

欠点は、ネットの被覆・撤去に手間がかかることである。



防蛾灯

### 防蛾灯

夜行性であるヤガは、ある程度以上の明るさ(1ルクス)があると、摂食行動をとらない。この性質を利用してヤガの被害を防止する方法である。手間がかからず、ネットを設置できない傾斜地でも利用できる。

ヤガ以外の害虫や鳥害に対する効果は期待できない。